

1. 研究課題名：

ダイオキシン類曝露による継世代健康影響と  
遺伝的感受性要因との関連に関する研究

2. 研究代表者氏名及び所属：

和氣 徳夫（九州大学大学院医学研究院）



3. 研究実施期間：平成 24～26 年度

4. 研究の趣旨・概要

化学物質がヒトの健康に及ぼす影響、なかでも、胎児期曝露による影響に世界的な関心が高まっている。

本研究では、ダイオキシン類曝露が次世代の健康にどのような影響をいかに及ぼすのかという継代的な健康影響とその機序を明らかにすることを目的とする。この主旨に沿って、ヒトがダイオキシン類に曝露した事例をもとに、三世代にわたる健康影響を調査する。ついで、継代的な健康影響の機序について、遺伝的感受性の観点から明らかにする。

本研究により継代的な健康影響および感受性の個体差を明らかにすることができれば、環境政策におけるリスク管理体制の構築の必要性を提示することとなる。

5. 研究項目及び実施体制

①ダイオキシン類曝露による継世代健康影響および血中ダイオキシン類濃度との関連に関する研究

（地方独立行政法人 福岡市立病院機構 福岡市立こども病院・感染症センター）

②ダイオキシン類の曝露量と継世代移行量の評価に関する研究

（学校法人 産業医科大学）

③ダイオキシン類曝露による継代的健康影響の発症機序に関するゲノム研究

（国立大学法人 九州大学）

## 6. 研究のイメージ

